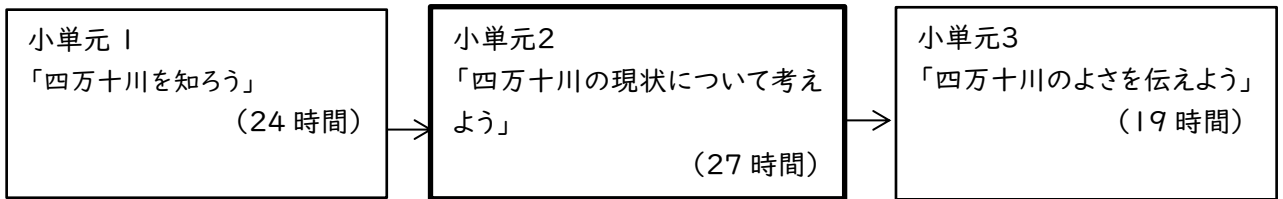


西土佐小学校 第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

令和3年 10月 20日(水) 第5校時
 児童数 18名
 指導者 大堀真由子

I 単元構想図

単元名 「すてき発見!四万十川」 全 70 時間
 小単元2 「四万十川の現状について考えよう」(27 時間)



◆学習の流れ

きっかけ

「西土佐といえば」というテーマでウェビングマップを作る。その内容を共有すると、西土佐には様々な「自然」に関するものや施設が多いことに気づき、今年の探究課題を「四万十川」とした。

第1次 知っているかな、四万十川の魅力(7時間)

- 1学期にしたことを振り返る。
- 四万十川の魅力について観光客や地域の人たちは同様に知っているのかアンケートの結果を基に四万十川の課題(透明度が落ちている・昔の方が川の環境が豊かであった)を理解する。
- 四万十川の魅力を伝えるには、自分たちが四万十川の何を伝えていきたいのか考える。

◆1学期の終わりに模造紙にまとめていることを見せながら、振り返りをさせる。その中で学んだ四万十川の魅力を思い出させたり、アンケートを通して四万十川の課題や良いところを実感させたりする。

第2次 四万十川の現状を知ろう(5時間)

- 地域の人あまり四万十川に魅力を感じていない原因を知るために、インタビューをしたり、聞き取りを行った。その中で、四万十川の課題と四万十川に対する地域の人の思いを知る。
- 八面山に登った体験や他教科で学んだことを生かし、川と山の関係について気づく。

◆意識の流れ

- ・一学期には、四万十川財団の人たちに水生生物や四万十川の魅力について話を聞いたね。
- ・実際に水質調査や清流度調査を通して、四万十川のきれいさ・豊かさを実感したよ。
- ・こんなにすごい川だって地域の人に伝えてみたいな。
- ・地域の人や観光客の方は、四万十川のきれいさをどのくらい知っているのだろう。
- ・3年生の時にも経験した、アンケートをとって聞いてみたいな。
- ・アンケートの結果では、観光客の方が県外からたくさん来ているよ。
- ・地域の人たちは四万十川にあまり魅力を感じていないみたい、どうしてだろう。

- ・実際に身近な人たち(家族や地域の人)はどう思っているのだろう。インタビューしてみよう。
- ・地域の方は昔の方が四万十川はきれいだったと言っていたね。
- ・ほかの地域の川とも比べているみたいだ。
- ・四万十川の豊かさを未来にも残していきたいという地域の人思いに出会ったよ。
- ・専門的な人に数値的な面での四万十川の昔と今の透明度や住んでいる水生生物の変化について話を聞くことはできないかな。
- ・理科や社会で勉強したように山と川はつながっているんだね。

第3次 比べよう、深めよう(10時間)

- 他地域の川と比較することで、四万十川の新たな課題に気付く。
- 昔の四万十川と比較し、地域の人が四万十川に魅力を感じていない原因を分析する。
- 昔の人と今の人の思いを知る。
- 四万十川を守り、地域の人たちに四万十川の魅力を伝えるために、自分たちにできることを考える。

- ◆思考ツールを使って、整理・分析させる。
- ◆理科や社会など他教科で学習したことが使えるように、声掛けをする。

第4次 知ってもらおう、四万十川の今(5時間)

- 地域の人に四万十川の現状(昔や他の川と比べてにごっていること)や昔の四万十川を知る人達の思いを報告・発信することで、四万十川の魅力を伝えるためには、どんな方法があるか考え、表現する。

- ・ほかの地域の川ってどんな川なのだろう。
- ・昔に比べて生き物の種類や透明度はどうなっているのか、実際に調べてみたい。
- ・山に登った時、たくさんゴミが落ちていたけど関係があるかもしれない。
- ・地域の人の願いである、今の川をより綺麗にするためにはどうすればよいのだろう。
- ・昔のような四万十川にしてみたい。そのために、ゴミを見つけたら拾ってみたい。

- ・アンケートに協力してくれた地域の人達にも、この事実を知らせるためにいい方法はないだろうか。
- ・昔の四万十川を知る人達の思いを地域の人たちにも知ってもらおう。
- ・自分たちが考えたことをどのように発信していこうかな。

単元でつきたい力

- ・四万十川の良さや特徴に気づき、それらが環境問題と保全に関わる人々の努力や工夫によって支えられていることを知る。【知識及び技能】
- ・四万十川の現状から問いを見出し、その解決に向けて話し合ったり、調べて得た情報を基に考えたりする。【思考力、判断力、表現力等】
- ・自分たちが設定した課題の解決に向けて、自分にできることを他者と協働して取り組む。【学びに向かう力、人間性等】

2 単元について

○単元観

本単元は、西土佐の観光地として最も身近である「四万十川」をくわしく調べたりまとめたりする活動を通して、自分たちが何気なく見ているものや接している物の中にも、いろいろな事実や地域の人々の思いが詰まっていることを学習できる教材である。

また、児童の家族や知り合いなどでも川に親しみを持っている人も多く、児童にとって興味や疑問が持ちやすい課題となっている。社会科での水はどこからきているのか、また、理科での雨水のゆくえについても学習するため、他教科との関連も図りやすい。一方自然環境の視点から見ると、昔に比べ透明度が落ちたり、水生生物の減少が見られたり、自然環境を保全していく必要がある。そんな課題を克服しようと市役所や四万十川財団の方などが関わって、清掃活動を行ったり生物調査をしたりしている。そのような取り組みに児童も関わり、地域と一緒に盛り上げ、地域を知り愛する心を育てるために適した単元であるといえる。多様な意見を聞き、いろいろな気づきを実感することを通して、自然環境を守ろうとする地域の人々の思いを感じ、児童自身が地域の一員であるという自覚を持つことができるようになり、自分たちが今まで感じていなかった西土佐の特徴や良さにも気づくことができると考えられる。

○児童観

本学級の児童は、3年生のときに「地域の祭りや年中行事」をテーマに学習をしている。行事に参加したり、携わっている人に話を聞いたりして、地域の歴史や文化財を大切に受け継いできた人々の思いや願いを学習

している。また、4年生国語の単元で、四万十川について知ったことを新聞で紹介する学習を行っている。

5月に行った「総合的な学習の時間についての授業アンケート」から、「総合的な学習の時間は楽しい」肯定的評価100%、「総合的な学習の時間で取り組んでいる課題を、一生懸命考えている。」肯定的評価88.9%という結果が出ている。比較的総合的な学習を楽しんでいることがわかる。また、「自分の地域が好きで、大事にしたいと思っている。」「地域や人の役に立てるようになりたいと思っている。」共に肯定的評価100%と西土佐のことを好きな児童が多いことがわかる。しかし、「総合的な学習の時間では、自分の考えがほかの人に伝わるように、理由をつけて説明している。」肯定的評価72.2%、「総合的な学習の時間では、自分から積極的に話しかけたり、発言したりしている。」肯定的評価77.8%と、自分の考えを積極的に表現することには弱さがみられる。また、「ほかの教科の学習が、総合的な学習の時間の活動に役立っている。」の項目も肯定的評価77.8%と低く、カリキュラムマネジメントを教師も児童も意識し、学習の有用性を持たせるようにしたい。

○指導観

小単元1では、四万十川について知るために実際に川を訪れ、四万十川財団の方の協力のもと、水生生物調査や清流度を調べてきた。その結果、四万十川は水生生物が豊富であるということに気が付いた。四万十川にしか住み着いていない生き物もいる。そのうえ、透明度も高いということ子ども達は体験を通して実感している。その魅力を地域の方たちは知っているのか、また観光客たちは何を目的に西土佐へ訪れるのか課題を持ち、アンケートで調べることにした。

小単元2では、アンケートの結果を集計し、地元の人や県外の方たちは四万十川についてどのようなことを知っているのか、情報を整理・分析することから始めた。その中で、観光客向けのアンケートでは、四万十川に魅力を感じている人が多いが、地域のアンケートでは四万十川に魅力を感じている人が少ないことが分かってきた。そこで、地域の人たちへ「どうして四万十川にあまり魅力を感じていないのか」をテーマとし、インタビューを行っていく。そこで見えてきた課題について地域の昔の方達にも聞き取りを行い、昔の四万十川の豊かさ、今の豊かさの違いを多面的に調べることにする。また、高知県には四万十川以外にも仁淀川という有名な川がある。県外や市外の方の認知度や透明度などを比較することによって、四万十川の新たな課題にも気づいていくよう指導する。また再度1学期を振り返りながら、比較対象を昔と現在の川の現状とし、地域の方や市役所の方達に聞き取り調査を繰り返すことで様々な視点から四万十川の現状を地域の人に知らせる。

小単元3では、前単元での課題を提示し、四万十川の魅力をどのように地域の方に伝えるかを考え、実行していく。1学期に聞き取ったことなどを基に、自分たちが今後していきたいことを決めていく。「ポスターで四万十川のすごさを知ってもらいたい」「多くの観光客に来てもらうためにインターネットを使えないかな」「アンケートで改善点なども書かれていたけど、自分たちに何ができるだろう」などの意見や課題が出てきている。出てきている意見が実現可能なのか、効果的なのかということ考えながら絞り込んでいく。絞り込んでいく際には、1学期にお世話になった四万十川財団の方や市役所の方にアドバイスをもらい、自分たちの思いと他者（地元や市役所の人や、四万十川を管理している人たちなど）の意見をすり合わせていく。自分たちではわからないことがたくさん出てくると予想されるので、そのたびに地域の方に協力してもらいながら解決させることで、地域との関わりが常にあるようにしたい。その際には、目的に応じてどの方に声をかけたらいいのかも考えさせる。

どの場面でもそれぞれが自分の考えや思いをもって話し合うことができるように、事前に自分の考えを書かせておきたい。また、全体で意見が出たときにはよりよい考えになるように吟味する活動を常にとり、資質・能力の育成に努める。山にも視野を広げて課題を探究していく。自分たちが決めたことが、形となって実現する体験をさせることで、「やりたい!」「やったらできるかも」という次への意欲や主体性を育みたい。また、情報収集や整理・分析などのサイクルを何度も回しながら、児童が思考し、自分事として真剣に取り組んでいけるようにしたい。

本時では、地域の人たちにインタビューをして分かったこと・聞き取った事実や専門的な人に聞き取った事柄を1つの表にまとめ、結果を分析することとする。まとめる際、その結果を基に自分たちで次の探究課題を設定できるよう指導していく。

3 単元の目標

四万十川の自然環境に関わったり環境の保全に向けた取組を行ったりすることを通して、自然環境の在り方について考えるとともに、地域の人や様々な人たちが四万十川を支えるために行っている取組を理解し、四万十川のために自分たちにできることを考えることができるようにする。

4 単元の評価規準

知識・技能 【知】	思考・判断・表現 【思】	主体的に学習に取り組む態度 【態】
<p>①四万十川の生物は、互いの特徴を生かし周りの環境と関わって生きていることを理解している。</p> <p>②インタビューによる調査を相手や場面に応じた方法で実施している。</p> <p>③四万十川の環境と自分たちの生活が繋がっていることの理解は、川とそこに生息する生物との関係を探的に学習してきたことの成果であることに気づいている。</p>	<p>①四万十川の環境の変化について、水質調査と調査活動を結び付けて水質悪化の問題を見付け出し、課題を明らかにしている。</p> <p>②四万十川の現状を捉えるために必要な情報について、手段を選択して多様な方法で収集したり、種類に応じて蓄積したりしている。</p> <p>③課題の解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら解決に向けて考えている。</p> <p>④四万十川の環境の保全を訴えることについて、調査結果をグラフや地図、写真を使って効果的に表し、報告書にまとめている。</p>	<p>①課題解決に向けた自己の取組を振り返ることを通して、自分の意志で探究的な活動に取り組もうとしている。</p> <p>②環境保全に向けた探究的な活動体験を通して、他者の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。</p> <p>③環境保全のために自分でできることに取り組むことを通して、自分と身近な環境との関わりを見直そうとしている。</p>

5 指導と評価の計画(全27時間 本時 16/27)

次	時	ねらい(○)と学習活動(・)	評価の重点			評価方法
			知	思	態	
一	1 7	<p>○四万十川の魅力を伝えるには、どんな方法がいいか考える。</p> <p>・1学期にしたことを振り返る。</p> <p>・四万十川の魅力について観光客や地域の人たちは同様に知っているのかアンケートの結果を基に四万十川の課題を理解する。</p> <p>・四万十川の魅力を伝えるには、自分たちが四万十川の何を伝えていきたいのか考える。</p>		②	①	<p>・発言</p> <p>・ワークシート</p> <p>・行動</p> <p>・振り返り</p>
二	8 12	<p>○地域の人にはあまり四万十川に魅力を感じていない原因を調べる。</p> <p>・四万十川に昔から関わる人や地域の人に聞き取り、情報を集める。</p> <p>・四万十川の課題と四万十川に対する地域の人々の思いを知る。</p> <p>・自分達の四万十川のとおき魅力について調べる。</p>	① ②	①	②	<p>・発言</p> <p>・ワークシート</p> <p>・行動</p> <p>・振り返り</p>

三 整理・ 分析	13 ～ 22	○集めた情報を基に、四万十川の現状や課題を考える。 ・昔の人と今の人の思いを知る。 ・四万十川を守り、地域の人たちに四万十川の魅力を伝えるために、自分たちにできることを考える。 ・わかったことを書き抜き、整理する。 ・昔と現在の四万十川を比較し、課題をつかむ。 ・仁淀川と比較させ、四万十川の課題を明確にし、自分たちにできることを明確に考えていく。	③	③ ①	・発言 ・ワークシート ・行動 ・振り返り
四 まとめ・ 表現	23 ～ 27	○情報をまとめ、自分たちがどのように地域の人にこの事実を発信していくか考え、四万十川の魅力について伝える。 ・小単元をまとめる。	①	④ ③	・発言 ・ワークシート ・行動 ・振り返り

6 本時の指導

本時の目標	地域の方や観光客に聞き取ったこと等をまとめ、比較し、整理・分析することができる。	
本時の評価規準	課題の解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら解決に向けて考えている。【思】	
準備物	ワークシート 付箋など	
学習の展開		
学習活動	意識の流れ	評価規準【評価方法】
1. 前時までを振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期には、四万十川財団の人と実際に川へ行って水生生物調査や透明度を調べたよ。 ・アンケートで地域の人達や観光客の人に四万十川に対する思いを調べたね。 ・家族は四万十川をどう思っているのかを聞き取ったよ。 ・駅長さんにも昔の川の様子について教えてもらったね。 	
2. めあてを確認する。	四万十川のために集めた情報を整理して自分たちにできることを考えよう。	
3. 前時までに聞き取り、まとめたことを短冊に書く。 グループ→全体	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果から、地域の方は四万十川についてあまり魅力を感じてないという課題があったね。 ・家族の意見の中では、昔の川と比べてにごっているという思いがある人が多かったね。 ・観光客の方は川を目的に来ている人がほとんどだったのがアンケートの結果から分かったね。 ・水生生物がたくさんいるという意見も多かったよ。 	課題の解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら解決に向けて考えている。【ワークシート・発言・振り返り】

<p>4. 集めた情報を分析する。</p> <p>5. 分析したことを基に自分たちにできることを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・川がキレイだということを多くの人が感じているね。 ・3者とも四万十川に対する思いは、同じだね。 ・観光客からは人気。 ・水生生物がたくさんいて豊かな川という意見が多いな。 ・地域の人にとって、宝物(大切な存在)なんだね。 ・地域の人あまり魅力を感じていないけど観光客の人は感じているよ。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人にも四万十川の良さをもっとアピールしたい。 ・もっときれいにするためにゴミ拾いがしたい。 ・みんなにとって、四万十川は宝物(大切な存在)だから守っていききたいな。 	
<p>6. 本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人に調べたことを知ってもらうためにはどうしたらいいのだろう。 ・四万十川の良さをポスターなどを使って伝えたいな。 	

7 板書計画

